

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」岡山福富校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 15日		～ 2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年 11月 15日		～ 2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各指導員の支援の技術の高さ	・指導員の固定感を出さずに1人の利用児に対して複数人で関わりを持ち対応している。 ・普段から支援内容の情報共有を行い、支援の引き出しを多くしている。	・引き続き1人1人の利用児に対して複数人の指導員で対応を続け、更に支援の質を上げていく。 ・経験則による引き出しが強いいため、専門性が強い引き出しを更に多くしていく。
2	朝礼を通して簡易的な事例検討会を行っている。	・朝礼の際に、1日前の利用児の様子を職員間で共有し、対応方法を職員全員で検討する。 ・普段から利用児の情報を共有することにより、指導員皆が些細な変化を認識しやすい環境にしている。	・法人内他事業所と共に朝礼を行い、教室にとどまらず多角的な意見を出し合える環境を整備し、支援の質を高めていく。
3	担当制ではなく1人の利用児に対して複数の指導員で対応している。	複数の指導員で対応することにより、支援内容に固定感を出さずに人との関わり方を持つことができる。	・複数の指導員で支援を行うと同時に、小集団の支援も行い、利用児間での関わりを持っていただく。 ・状況に応じて、法人内別事業所と連携を行い、情報共有を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	指導員による支援の技術に差がある。	支援員の経験の違いによる技術と知識の差が発生している。	・知識・技術を共有する時間を設け、支援の勉強会等を行っていく。 ・各自、調べたい専門性を調べ定期的に共有して育、専門性共有会を教室内で行っていく。同じジャンルで重なった場合は、複数人で調べても良しとする。
2	運動できるスペースが狭い。	・ホワイトボード・パーテーション等の設置により広いスペースの確保ができていない。 ・放課後デイサービスの利用児が使用する机が大きく粗大運動を行うスペースの確保が難しい。	教室備品の配置の再検討を行う。 不必要なホワイトボードは、処分・他事業所に譲る等の対応を行っていく。 大きい机は、壁際に引っ付けるように設置し活動がしやすいように調整していく。
3	イベント等を行っているにも関わらず知らなかった利用児・ご家族様が多い。	・ニーズに沿っている利用児・ご家族様のみ周知を行っているため、ご家族様間での情報に差が出てしまっている。	・周知を行う際には、事業所側の付度をせず、各利用児・ご家族様に対して公平に周知を進めていく。 ・児童発達支援向けのイベントが多いため、放課後デイサービスの利用児様には、イベントスタッフ体験に参加してもらおう等の社会性を育むような参加方法を促していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」岡山福富校
------	---------------------

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 27名

回収数 15名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	2	1		運動する時少しせまそう	教室備品の配置の再検討を行う。不必要なホワイトボード等は、処分等対応を行っていく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	13	1		1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	2				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こどもの活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14		1			教室内の清掃は行き届いているが、運動活動が難しいため、運動を行う際に机を移動する等の対応を行っていく。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2		7	6		今後は、教室内で行うふれあい広場を地域に周知し、地域内にこどもの関わりを増やしていく。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	4		4		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	13	2				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7		4	4		教室内でママカフェ・パパカフェを行い、ペアレントトレーニングを行っていく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13			2	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	3		7	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			2	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10			5	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	3		5	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15				自信がつくような関わりは嬉しく思います。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	1			もう少し学習支援を重視してほしい。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもサポート教室「きらり」岡山福富校				公表日	2025年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	軽度の放デイ利用児を支援する上でのスペースとしては適切。 低学年や重度の利用児を支援する上ではややスペースは足りていない	サイズが大きい机を壁際に寄せて児発・放デイともに対応しやすい支援スペースを確保する。 また、程度が重い利用児の場合は、2つ分のブースを使用する等対応を行っていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	玄関の階段、手すりがない 児発と放デイが混在した時に、騒音等の対策が必要。 誰でも理解できるように、情報の視覚化を図っている。	玄関前の階段は物理的に改修が困難なため、利用児が到着した際に玄関前までお迎えに行き、利用児が事業所を出発する際に車まで送り安全を最優先で対応していく。 騒音が気になる利用児は、事務所に近いブース・事務所内の静養室を用意し支援対応していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎朝清掃を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		簡易個室になっています。 個別対応が必要な時はパーテーションで仕切っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		朝礼で、日々の振り返りや疑問などを発表することで、目標が定めやすくなっている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		出来る限り改善するようにしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎朝ミーティングを行っており、職員の意見を聞き入れている。 話しやすい職場の雰囲気になっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		最寄りの相談支援事業所の担当者に事業所のアンケートの記入を依頼し、いただいた評価を参考にし業務改善を進めていく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		法定研修や事例検討などの研修を行っています。		
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		悩んだ時には、児発管や他指導員に相談しながらプログラムを作成している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		日々の朝礼等で情報共有を行っているが、更にアセスメント対応の強化を図っていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		個別の活動であるが、何かあれば全体で会議を設け改善できるように字話し合いがもたれています。 朝礼が、事例検討会のようになっており、支援の内容などの共通理解ができています。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		支援で行き詰った際には他指導員や児発管に相談し、意見を頂いている。 あえて固定した方がいいものもあるため、ご本人の様子や取り組みの様子から保護者の方と相談させてもらっています。 お子様の様子により、児発管と相談の上、必要なプログラムを変えている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1		基本的には個別療育の事業所ですが、必要に応じて小集団の療育も行っている。引き続き、利用児のニーズや状況に応じて小集団療育の対応も行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝ミーティングで確認している。 どのような様子であったかなど朝礼を通して話し合いの場が持たれています。 朝礼で、今日の予定などを発表する。または引継ぎなども丁寧にしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援記録をその都度記入し、全体に周知しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		支援の順番を決めたり、プリントを選んだり、決定事項を自分でホワイトボードに書く。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		関係機関連携を通して、学校との関わりを増やしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1		年間計画を共有をお断りしている学校以外は、情報共有を行っている。今後は、どんな学校でも情報共有ができるように関係性を深めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		必要であれば学校へ支援の様子などをお渡ししています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2		利用児様のお母様が勤務している児童発達支援センターがあるため、定期的に支援のノウハウと情報共有を行い、支援の質の向上を図る。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4		今後は、教室内で行うふれあい広場を地域に周知し、地域内にこどもの関わりを増やしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3		児発管・管理者は参加するケースがあるが、指導員の皆は参加したことがないため、今後は、参加するように促していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		毎回支援の後にフィードバックを行い、情報共有を行っている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		支援に対するフィードバックを通して家族の対応力の向上を図っているがペアレントトレーニングは行っていない。今後は、集団向けのペアレントトレーニングを行っていく。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		支援後のフィードバックで最近の悩みなどを聞き入れるようにしている。また、その場で解決策を伝えることが難しい案件の際は、事業所内相談を行い、深く検討している。 フィードバックの中で、必要があれば事業所内相談の提案をしていく。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		パパカフェなどを開催し、交流の場に繋げています。 小集団活動などで、調理実習をした際に、保護者と一緒に試食する時間を設けた。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		ブログやインスタグラム等で定期的に情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		今後は、教室内で行うふれあい広場を地域に周知し、地域内にこどもの関わりを増やしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	1時間の個別療育であるため食べ物を食べる機会はありません。	今後は、調理実習を行うことも考えられるため、事前にアレルギーの確認と医師の指示のもと対応方法のレクチャーをお願いする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的に研修を受けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				